

# 私立山梨英和学院山梨英和高等学校

富士山北麓の「山中のハリモミ純林」は消滅するのか

## 独自の武器で天然記念物の林を守る!

環境科学会で「最優秀賞」を受賞

県内唯一の女子校である山梨英和学院山梨英和高等学校は、2013年度から継続してスーパーサイエンスハイスクールに指定されてきた。そんな同校の自然科学部は、環境科学会2019年会のポスター発表(大学生以下部門)で、最優秀賞と優秀賞をダブルで受賞するという快挙を果たし、全国的に注目された。

最優秀賞を獲得したのは、富士山麓にある国の天然記念物「山中のハリモミ純林」の枯死に関する研究だ。かつて3万本といわれたハリモミ成木は400本まで減少しており、同研究班のリーダーである五味真奈美さんは、「枯れた木を見て痛ましくなりました。地元のハリモミ林を存続させることを通して、遺伝子の多様性を守りたい」と研究の目的を語る。



環境科学会2019年会のポスター発表(大学生以下部門)で最優秀賞を受賞した自然科学部/ハリモミ研究班



最初は抵抗感があったダニだが、今ではマスコットを作るほどになっている



ヤブに分け入り、大量の土を運ぶフィールドワークはかなりの重労働だ

真の研究姿勢を育むツール

そんな彼女たちの研究の武器はダニとラボノートだ。部にはササラダニ類を指標生物とする研究ノウハウが受け継がれており、ハリモミ班もダニの調査で林の土質を把握している。指導する山本絳治教育顧問は「女子なので最初はダニに抵抗感がある」と話すが、部員たちはすぐに慣れるようで、1年生の吉川椋さんは「一つ一つ個性があって、今ではかわいいと感じています」とはにかむ。

もうひとつの武器である班共有のラボノートには、「一度書いたものは絶対に消さない」というルールがある。これによって部員たちは、正直に履歴を残す、変な数値が出てもごまかさない、といった真に科学的な姿勢を身につけてきた。緊急事態宣言中も、「記録を見返すことで成木の分布とヨックボダニの関係が見えてきた」(五味さん)というように、ノートは研究の強力な武器だが、同時に真の研究姿勢を育むツールでもあるのだ。

(令和2年度個別助成)

### ●実施担当

大島敦子 教諭

### ●活動のモットー

押し付けられるのではなく、主体的に活動することが大切。研究テーマも生徒の自由に決めさせているが、目的意識を明確にしてから始めさせている。



### 学校概要



「国際的な視野に立ち社会に貢献できる自立した女性を育てる」ことを教育目標とした、キリスト教系中高一貫女子教育の伝統校。

設立:1889年

生徒数:469人

所在地:山梨県甲府市愛宕町112



これまでに5000匹ものダニの同定作業を進めてきた

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創業者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索